



「CEの未来を創る、
すべての人の笑顔を創る」

令和8年 年頭所感
参議院議員 釜范 敏

2026年 年頭所感
理事長 肥田 泰幸

万博に見る日本人体質
理事 三井友成



社会の支え合いを支える
技術者としての臨床工学技士
前衆議院議員
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部
医療データサイエンス学科 特任教授
橋本 岳

病院の赤字と将来の担い手不足
～医療をインフラとして再定義する時～
副理事長 小林剛志



2026年

年頭所感

理事長 肥田 泰幸



新年あけましておめでとうござ
います。2026年が皆さまに
とって健やかで実り多い一年とな
りますよう、心よりお祈り申し上
げます。

さて昨年は、医療現場でも社会
全体でも、変化のスピードが一段
と上がったなと感じる一年でし
た。AIやデジタル技術は私たち
の仕事の隅々に入り込み、医療機
器の管理から教育、在宅医療、情
報セキュリティまで、臨床工学技
士の活躍の場は確実に広がってい
ます。一方で人口減少や働き手不
足は避けられず、医師・看護師と
のタスクシフト／シェア、医療
DX、在宅医療の体制づくりな
ど、私たちが関わる領域はさらに
重要性を増しています。

つまり今は、「臨床工学技士が
どれだけ力を発揮できるか」「医
療の未来がどれだけ前に進むか」
に直結する時代と言っても過言で

はありません。これは大きなチャ
ンスであり、同時に大きな責任で
もあります。

2025年は、多くの皆さまが
研修・調査・教育・政策活動など
に積極的に参加してくださり、組
織としての勢いが確実に増した一
年でした。本当にありがとうございます。
各地で新しい取り組み
が生まれ、若い世代もベテランも
関係なく、横のつながりが強く
なってきたことを強く実感し
ています。しかし、まだまだ十分
とは言えません。私たちが抱える
課題は、組織の数名だけでは到底
解決できませんし、現場のリアル
を知る臨床工学技士一人ひとりの
声こそが、これからの医療政策や
教育改革の大きな力になります。
だからこそ本年は、これまで以上
に「広く、たくさんの方の皆さまの力
を貸していただきたい」と強く
思っています。イベントに参加す

る、意見を届ける、調査に協力す
る、同僚に声をかける、SNSで
情報を広める。小さな一歩が、最
終的には大きな変化を生みます。

そして、どんな形であれ心を
寄せ、仲間として一緒に動いてく
ださる「支援の輪」こそ、私たち
の活動を前に進める最大の原動力
です。

2026年は、「一部の人が頑
張る年」ではなく、「みんなで一
緒に進む年」にしたいと考えてい
ます。大きな変化の渦中にいる今
こそ、私たち自身が未来をつくる
側に回るチャンスです。今年もど
うか、これまで以上のご理解とご
支援をよろしくお願い申し上げます。

皆さまにとってこの一年が、挑
戦と成長に満ちた素晴らしい年と
なりますように。
本年もどうぞよろしく願いま
したします。

「CEの未来を創る、
すべての人の笑顔を創る」



臨床工学技士を支援する議員連盟 開催報告

日時 2025年11月20日

8時～9時

場所 参議院議員会館
参加者 衆議院16名、

参議院16名の国会議員

加藤勝信会長、野田毅名誉会長、自見はなこ事務局長、安藤たかお議員、磯崎仁彦議員、今枝宗一郎議員、大家敏志議員、小川克巳議員、鬼木誠議員、小野田紀美議員、工藤彰三議員、小林孝一郎議員、こやり隆史議員、世耕弘成議員、田畑裕明議員、富岡勉議員、中西健治議員、中西祐介議員、西田英範議員、長谷川淳二議員、福岡資麿議員、福山守議員、船橋利実議員、古川俊治議員、松本尚議員、山下貴司議員（五十音順、代理出席含）

厚生労働省・文部科学省から計8名、関係団体3名、臨床工学技士20名



厚生労働部会と日程が重なる中にもかかわらず、これほど多数の国会議員・関係者の皆さまにご臨席いただいたことは、関係各位のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。また、釜泡とし先生に対する我々の支援体制と結果より、日本医師会副会長の重松先生にもご参加いただいたことは、大変心強い出来事でございます。（画像参照）

今回の議員連盟では、最終的に決議文が採択され、従来よりも一歩踏み込んだ形となったことをご報告申し上げます。会の中でも話題となりましたが、こうした成果は、タスクシフトシェアや告示研修への積極的なご参加など、真摯に取り組んでくださった会員一人ひとりの誠意の結晶であり、改めて深く御礼申し上げます。また、得られた成果の評価と

本議員連盟は政府に対し、以下の対策を求める（決議文）

- 一、臨床工学技士の急性期医療への貢献に対する診療報酬上の評価
- 二、地域医療確保を目的とした更なるタスクシフト／シェアの推進
- 三、臨床工学技士の処遇改善に向けた人事院規則9-8の見直し
- 四、医療機関の医療機器安全管理におけるサイバーセキュリティ対策の明確な位置づけ

して、給与への反映にまで踏み込んだ要望ができたことは、極めて大きな前進であると受け止めております。病院経営が厳しさを増す中にあっても、30代を中心とする臨床工学技士が、夢と希望をもって安心して業務に向き合える環境づくりを私たちは引き続き進めてまいります。そのためには、これまで以上に一丸となった支援体制が不可欠です。本日の成果を大きな力として捉え、今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



議連総会当日の様子①



議連総会当日の様子②

令和8年 年頭所感

参議院議員 釜范 敏



明けましておめでとうございます。

肥田泰幸理事長様はじめ日本臨床工学技士連盟の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

2025年5月16日に大阪で開催されました「日本臨床工学技士組織強化情報交換会」におきまして、私の応援ソングが流れる中、オリジナルで作成いただいた「私の似顔絵の旗」を振ってお迎えいただいた感激は、生涯忘れることのできない思い出となりました。また後援会活動として、約1,800名の方にLINE登録を行っていただきました他、XやFacebook等SNSも駆使していただき、本当に力強い支援の輪を拡げて頂きました。

昨年7月の参議院議員選挙では与党が過半数割れし、自民党の全国比例の得票数も前回から大きく減少するという極めて厳しい状況の中でしたが、皆様のご尽力によって、医療・社会保障関係候補者7名のうち、トップの17万4,434票余りを獲得することができました。

こうして皆様から国政に押し上げていただきましてからも、政局が不安定な時期が続きました。9月7日には石破総理大臣（当時）より退陣が表明され、10月4日に

自民党総裁選が行われ、私も自民党議員として、一票を投じて参りました。決選投票の末、高市早苗議員が新総裁に選出され、10月21日の臨時国会において、憲政史上初の女性首相として高市早苗総裁が第104代内閣総理大臣として就任されました。

高市総裁は、就任後初の記者会見や9月24日の所信表明演説において、現在の医療機関等の窮状を踏まえ、経済対策最優先で取り組む方針を示されました。また診療報酬・介護報酬について、改定時期を待たずに経営改善や医療従事者の処遇改善につながる補助金を前倒しして措置し、効果を高めるとの考えも示しておられます。われわれ医療・介護業界の収入は公定価格で決められています。しかし、その決められた収入に対して、支出の方が大幅に増えてしまっている状況です。医療・介護が置かれた非常に厳しい経営状況は、日に日に悪化しており、長期的な視野に立って適切な収支差をきちんと設定することが不可欠です。

また、賃上げが進む他の業種への人材流出も進んでしまっており、処遇改善による人材確保は喫緊の課題です。こうした状況に対し、一刻も早く、改善する手立てを講じなければなりません。新政権下では日

本維新の会との連立政権という新しい枠組みになりますが、どのような枠組みであれ、国民にとってなくてはならない医療・介護・福祉を持続可能なものにすることが私の責務です。

医療・介護・福祉は「なくてはならない社会基盤」であり、医療機関や介護施設がないところに人が住むことはできません。医療機関や介護施設が突然倒れてしまうような事態は絶対に避けなければなりません。

これから通常国会が開催されます。これまでの遅れを取り戻し、物価高・賃金上昇に対応するため、全体の動きを注視しながら適切なタイミングで、しっかりと意見を述べてまいります。本年の干支は、「午」です。力強く、まっすぐ前へ進む馬の姿は、「情熱」や「前向きなエネルギー」の象徴とされています。今回の選挙において皆様から託していただきました一票一票の重みとその責任を胸に刻み、私も「馬車馬のように」を指して、エネルギーッシュに活動する一年にしてまいります。

新しい年が日本臨床工学技士連盟の皆様、お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶とさせていただきます。本年も引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第27回参議院議員通常選挙におけるご協力への御礼

この度の第27回参議院議員通常選挙におきまして、医師会公認で比例代表に立候補いたしました釜范 敏（かまやちさとし）先生に対し、全国の会員の皆様から多大なご支援、ご協力を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

皆様の熱意あるご協力のおかげをもちまして、釜范先生を無事、国政へと送り出すことができました。

連盟といたしましても、推薦候補として釜范先生を全面的に支援し、選挙運動を展開してまいりましたが、今回の勝利は全国の会員各位の絶大なるご協力の賜物にほかならず、ここに深く御礼申し上げます。



選挙報告会の様子

社会の支え合いを 支える技術者としての 臨床工学技士



前衆議院議員

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部

医療データサイエンス学科 特任教授

橋本 岳

日本の医療保険制度は、世界に誇るべき「国民皆保険」の制度です。日本に定住する人は、所得や仕事に関わらず、誰でも必要に応じてタイムリーかつ質の高い医療を受けることができます。この仕組みを支えてきたのは、臨床工学技士をはじめとする医療専門職の皆様の、日頃からの研鑽と努力のたまものです。

しかし今、この制度の持続可能性が問われる事態に立ち至っています。背景には、人口構造の変化があります。それこそ「国民皆保険」の結果として、日本は長寿社会を迎えています。本来これは祝うべきことです。他方で2000年初頭から懸念されていたにも関わらず、少子化に歯止めをかけることができていません。そのため子ども世代のみならず現役世代人口の減少が継続的に進行しています。これらが相まって、高齢化率は2024年で29.3%

用する仕組みが求められます。医療機器の適正管理、人工呼吸・透析・補助循環などの高度な装置操作、さらには医療DXやAIの導入に向けた現場の改善など、臨床工学技士の活躍が期待される場合は今後一層広がることでしょう。限られた資源を最大限に活かし、安全で持続可能な医療を実現する上で、皆様の専門性は欠かせないものと考えます。

なお医療保険制度を支えるもう一つの柱は「社会的連帯」の理念であると考えます。例えば高額療養費制度や難病医療、小児慢性特定疾病などの制度は、病気に苦しむ患者やその家族の経済的負担を軽くする大切な仕組みです。冒頭記したように、そもそも国民皆保険制度自体が、所得や仕事に関わらず高い質の医療を受けることができる「支え合い」なのです。社会保障制度はしばしば現役世代が高齢者を支えていると捉えられがちですが、特に医療保険制度に関しては、本質的には老若男女を問わず傷病に苦しむ人を皆が支え合う仕組みです。こうした理念を忘れ、単なる「負担と給付の損得勘定」としてしか見ていないのではないかと思えるような議論がしばしば見受けられます。確かに後期高齢者医療制度における自己負担割合や保険料負担割合は低く設定されていますが、仮にこれを現役世代並みにした場合、本人が支払う資産などがあればよいですがさもなくば結局現役世代の家族への経済的負担としてのしかかるか、または治療を諦めるしかないということが現実のものとなりかねません。

結果として、さらに保険料を負担する意味が厳しく問われるという負の連鎖に陥ることまで考えられます。

先日、妻の自見はなこが体調を崩し川崎医科大学附属病院に入院しましたが、現場の方々に誠心誠意の治療をいただいて無事に快癒することができました。臨床工学技士の方々のお力もいただきました。家族としても心から感謝申し上げます。家族であればこそ、私自身もこの貴重な「支え合い」の仕組みを守ることには力を尽くしたいと改めて思った次第です。社会保障の目的は、すべての人が安心して生きていける社会を支えることです。その実現には、制度の設計と現場の実践が両輪で進むことが大切です。医療制度を語るとき、数字や財源の話だけでなく、現場で支える一人ひとりの専門職の誇りと使命感を忘れてはなりません。臨床工学技士の皆様の力が、日本の医療の未来を明るく照らすと信じています。



病院の赤字と将来の担い手不足 医療をインフラとして再定義する時

副理事長 小林 剛志

高市内閣が発足し、政権の重点政策として「経済再生」や「地方活性化」が掲げられている。医療や介護分野への支援も取り上げられているが、一方でガソリン税の廃止論や消費税見直しが検討課題として浮上している。特に消費税に関しては、野党が国会で重要案件として代表質問を重ねており、財政再建と国民負担の在り方をめぐる議論は激しさを増している。

しかし、仮に減税が進めば財源は確実に減少する。国の歳出の約3分の1を占める医療・社会保障費が真っ先に見直しの対象となるのは避けられず、長年続く医療費抑制の流れはむしろ強まるだろう。結果として、診療報酬の大幅な引き上げは望みにくく、病院経営の圧迫がさらに進むことになる。診療報酬が上がらなければ、支出の半分を占める人件費を削るしかなく、経営側はコストカットに踏み込まざるを得ない。その際に標的となりやすいのが、診療報酬を直接生まない臨

床工学科のような支援部門である。実際、当院も赤字を抱え、増員は困難で欠員補充にも苦慮している。限られた人員で、透析・心カテ・手術・内視鏡・在宅酸素など多岐にわたる業務を担っており、現場の疲弊は深刻である。

一方、タスクシフトを積極的に進め、臨床工学技士を有効に活用している施設も増えている。医師・看護師・薬剤師・臨床工学技士が職種の壁を越えて連携し、効率的な診療体制を整えることで成果を上げている。病院経営の巧拙は、まさにこうした現場運用の柔軟性と先見性に表れる。

しかし、医療制度そのものが疲弊している現状では、個々の努力だけでは限界がある。慢性的な赤字、人材確保の困難、物価高騰と報酬据え置きという三重苦の中で、現場の士気を維持することすら難しい。さらに、少子化の影響は医療人材の養成段階にも及んでいる。地方の専門学校や大学では定員割れが常態化し、医療職を志す若者

自体が減少している。これでは将来どころか、数年先の担い手確保すら危うい。病院の赤字は単なる経営問題にとどまらない。担い手を失えば、夜間救急や手術、透析、呼吸療法など、命を支える医療の継続が難しくなる。地域医療の縮小はやがて「静かな医療崩壊」として進行し、取り返しのできない事態を招く。

では、どうすれば持続可能な医療を守ることができるのか。

第一に、医療従事者が安心して働き続けられる環境づくりが欠かせない。長時間労働や過重な責任に対して、十分な対価と支援を確保することが必要である。加えて、チーム医療を推進し、職種間で業務を分担・連携できる仕組みを整えることで、現場の負担を軽減できる。

第二に、デジタル技術の活用による業務効率化が求められる。AIによる診療支援や医療機器管理の自動化、遠隔モニタリングの導入は、限られた人員でも質の高い医療を維持する鍵となる。特に臨床工学技士のように医療機器に精通した職種は、その中心的役割を担うことになる。

第三に、地域全体で医療人材を育てる仕組みづくりが必要である。高校生の段階から医療職の魅力を伝え、地元で学び、地元で働く循環を形成する

ことが重要だ。また、育児や介護などで一時的に離職した医療従事者が復職しやすい制度や支援環境を整えることで、即戦力の確保にもつながる。

病院の赤字問題は、単なる経営課題ではなく、医療を担う「人々の未来」に直結する社会的課題である。支える「人」がいなければ、どれほど立派な建物や機器があっても医療は成り立たない。今こそ、病院経営と人材育成を一体として考え、持続可能な医療体制を築くことが求められている。

医療は道路や電力、通信と同様に、国民の命を支えるインフラである。医療従事者を守ることは、国を守ることにも他ならない。政治も経営も、そして現場も——今こそ同じ方向を見据え、医療の再生に向けて具体的な一歩を踏み出すべき時である。



万博に見る日本人体質

理事 三井 友成

大阪・関西万博が近づくにつれ、ニュースでは建設の遅れや費用の増大が繰り返され、国際的な祭典であるはずの万博が、いつの間にか「間に合うか」「予算が足りない」といった国内の不安と批判の対象になっていた。一方、主催者側は、開催後半は満員になるから早く来るようにと連呼していたが、始まって見るとその通りで前半はガラガラで最終日は徹夜組まで出る大盛況となった。日臨工の告示研修でも、もうすぐで終わりという段階では予約が取りにくい状況になっている。この状況を見ると、万博というイベントを通して、日本人の持つ特有の体質が浮かび上がってくるように思う。

日本人の几帳面さと慎重さが極端に作用した例と言えるだろう。

一方で、日本人の「調和を重んじる」性格もまた万博に表れている。万博は、世界各国がそれぞれの文化や技術を披露する場でありながら、日本の場合、「全体の調和」を何より優先しようとする。会場デザインからパビリオンの配置に至るまで、統一感や秩序を大切にしているのは日本らしい姿勢だ。しかしその裏には、異なる意見をおつけ合いながら新しい価値を生み出すよりも、「波風を立てない」ことを優先する気質も見え隠れする。組織の意思決定が遅れ、責任の所在があいまいになるのも、この「協調の文化」と無縁ではない。

また、日本人の「おもてなし精神」も万博に色濃く表れている。来場者に快適に過ごしてもらうための配慮や安全対策、細やかなサービス精神は世界でも高く評価されている。しかし、このおもてなしの裏には、「相手の期待に応えなければならぬ」という過剰な義務感が潜むこともある。結果として、現場の負担が増し、準備が複雑化してしまう。万博のボランティア募集や運営体制の議論を見ると、「誰かが頑張って何とかする」という日本の精神論が、今も根強く残っていることが分かる。

さらに、日本社会特有の「前例主義」も大きな影を落としている。新しい発想よりも、「これまでうまくいった方法」を重視する傾向が、スピード感を損なっている。例えば、デジタル技術の活用や海外企業との柔軟な協働など、変化に対応するための仕組みづくりが十分とは言えない。これもまた、日本人がリスクを恐れ、失敗を極端に避ける国民性の表れである。

一方で、このような慎重さや調和志向には、災害や困難に直面した際に発揮される「粘り強さ」や「連帯意識」といった強みもある。たとえ準備段階で混乱があっても、本番を迎えれば現場が力を合わせ、きちんと仕上げてくるのが日本人の底力である。東日本大震災やコロナ禍の際にも見られたように、日本人は危機の中で秩序を保ち、互いを支え合う力を持っている。万博も最終的には、多くの人々の努力と協力によって成功へと導かれるに違いない。

つまり、万博は単なる国際博覧会ではなく、日本社会の縮図でもある。完璧を求める真面目さ、調和を重んじる協調性、そして最後に帳尻を合わせる現場力。これらすべてが「日本人体質」として息づいている。その体質が時に足かせとなり、時に誇るべき強みとなる。

2025年の大阪・関西万博を通して、私たちは改めて「日本らしさ」とは何かを問い直す機会を得ているのではないだろうか。未来を語る祭典が、過去の体質を映す鏡にもなる——それこそが、万博のもう一つの意義である。

新入役員の紹介



中四国理事補佐

林 博之

臨床の現場に立ちながら、日々「臨床工学技士という職種の可能性」を強く感じております。より多くの方にその魅力を知っていただきたいという思いから、この役職をお引き受けいたしました。現場で働く技士一人ひとりが誇りを持って仕事に臨み、次の世代が希望をもってこの道を選べるような環境づくりを目指しています。今後は、臨床現場の声を連盟活動に反映させ、職種の価値向上に努めてまいります。一人の力では成し得ないことも、仲間と協力し合うことで実現できると信じています。微力ながら、技士の未来と連盟の発展のために尽力いたします。

事務局だより

連盟SNSカード配布
スタート＆
LINEを活用した情報発信

日本臨床工学技士連盟（以下、連盟）の組織力強化に向けて組織部主導で、SNSカードの配布を開始しました。

登録者が増えれば増えるほど、連盟の影響力が大きく見えるといった仕組みです。

臨床工学技士以外の登録も可能ですので、積極的な登録と支援者の輪の拡大にご協力をお願い致します。



連盟SNSカード(表)

日本臨床工学技士連盟



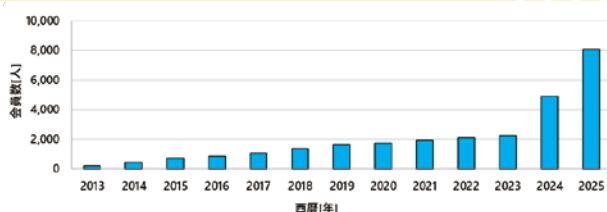
CEの未来を創る。
すべての人の
笑顔を創る。

連盟SNSカード(裏)

繋がりこそが、世の中を動かすチカラ



会員数動向



日本臨床工学技士連盟会員数

ワンコインプラン全国達成度マップ

2023年	宮崎県(167人)・愛媛県(244人)
2024年	福岡県(989人)・高知県(255人)・徳島県(190人)・ 島根県(80人)・岡山県(353人)・奈良県(290人)・山形県(286人)
2025年	福井県(142人)・鹿児島県(139人)・長野県(28人)・ 秋田県(190人)
2026年	熊本県(515人)・鳥取県(94人)・愛知県(1503人)・ 広島県(723人)・静岡県(500人)・長崎県(210人)・三重県(94人)
2027年	???

※2026年の団体会員数

20/47



団体会員へのご加入、
徐々に増えてきております！
皆様、ご検討お願いいたします！

おっさんの料理

鶏もも肉の
南蛮漬け

作り方

塩胡椒した鶏もも肉に片栗粉を塗って揚げてから酢、砂糖、麵つゆで作った南蛮タレに漬けてパプリカ、にんじん、ごぼうをのせ冷蔵庫で冷やしたら出来上がり！



会員情報の変更のお願い

転職や転勤などにより、会員情報に変更がありましたら、ホームページの「会員情報システム」よりお早めに修正をお願いいたします。そうすることで、最新の情報をスムーズにご確認いただけ、より充実した会員サービスをご利用いただけます。団体会員の方につきましては、所属の技士会へご連絡ください。

会費のお願い

皆様からの会費は、より良い活動を行うための貴重な財源です。会費のお支払いは、クレジットカード、コンビニ決済、銀行振り込みのいずれかをお選びいただけます。ご協力よろしくお願いいたします。

お支払日につきましては、クレジットカードは毎年入会月に、コンビニ決済と銀行振り込みは毎年6月末を予定しております。ご協力よろしくお願いいたします。※団体会員の方は所属の都道府県技士会が代行徴収いたします。

連盟への参加のお願い

日本臨床工学技士連盟は、皆様の力によって支えられています。政治的な信条は問いません。選挙の際は、ご自身の考えに基づいて投票してください。連盟では、皆様の意見を反映させながら、より良い臨床工学技士の未来を目指して活動しています。ご意見やご質問は、ホームページの「お問い合わせ」からお気軽にご連絡ください。

また、連盟の活動にご興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。一緒に臨床工学技士の地位向上を目指しましょう！

